

しあわせな暮らしのために

ライフデザインを描いてみよう

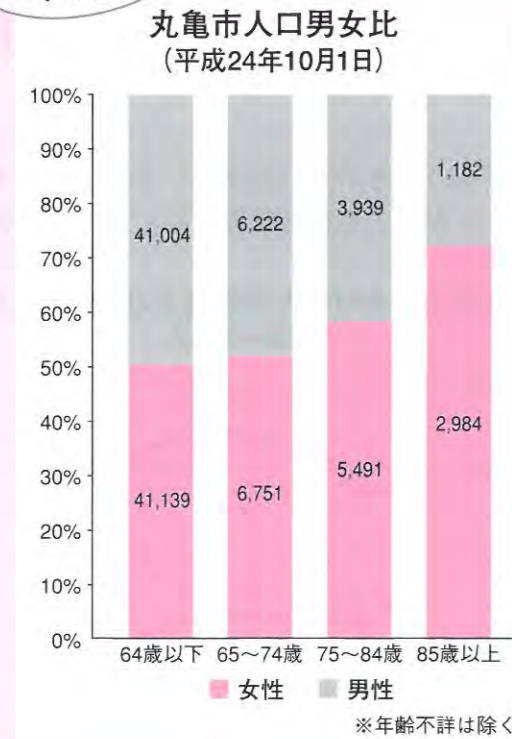
人口減少の課題を視野に入れて、ご自身のライフデザインを語り合ってください。

皆さんも、仕事、生き甲斐、結婚や子育て、老後の暮らしなど、自分や家族の将来について考えてみませんか？

座談会

- 岩田理香 (丸亀市PTA連絡協議会/飯野町)
岡田康男 (丸亀市男女共同参画審議会/瓦町)
川田幸子 (丸亀市社会福祉協議会/飯山町)
津村幸子 (富熊婦人会/綾歌町)
三井秀五 (さぬきっずコムシアター/川西町)
岡本恵子、溝淵由美子 (ゆめ編集委員)

人口減少社会に挑む



<男女別の人口比率>
64歳までの男女比率は、ほぼ1:1
65歳~74歳 1:1.1
75歳~84歳 1:1.4
85歳以上 1:2.5
歳を重ねる毎に顕著な男女差が見られる。
<70歳以上の一人暮らしの高齢者>
男性 564人
女性 2,100人 (男性の3倍以上)
(平成24年2月調査より)

子育て 丸亀が大好きな子に

岡本:丸亀市は今、人口が微増していますが、自然増はほとんどなく社会的な増加です。子どもが減らないまちづくりが必要ですね。

津村:結婚して富熊に来た頃は、まわりに何もなくて生活道も未整備。子育てで専業だったが声をかけてもらって生活研究グループ・婦人会ほか地域活動に関わり50年になる。最近は安全パトロールもしている。子どもを取り巻く環境が気になります。

川田:結婚して飯山で暮らし始めたが、仕事を通して友だちもできた。子どもが生まれて仕事を辞めたが、2年前にファミリーサポートセンター(地域で子育てを支援する事業)で働き始め、「こういう制度があるんだったら、もう一人産もうかな」との声を嬉しく感じている。母親が子育てで仕事を辞めずにすむように、職場の環境整備なども必要だが、力になりたいと思います。

三井:僕は第二次ベビーブーム世代。大学は県外だが、地元が好きでUターンした。一人目から積極的に育児に関わり、「とっとコム丸亀」(イクメンサークル)で活動している。先日、まんのう公園に父子遠足に行き、芝生ソリをしてめいっぱい楽しんだ。妻はショッピングなどでリフレッシュして笑顔で帰宅。

岡田:家業を継ぐため丸亀に帰って20年になる。子どもの頃は、商店街の両親は忙しく、親はいつも家にはいたが一緒に遊んだ記憶はない。

岡本:商店街で育つのは、周りの目が窮屈な反面、コミュニティのみんなに見守られて心地良かったと思います。

岩田:私は保育園の時から鍵っ子でした。曾じいちゃんがお迎えにきて遊んでくれた。大学で都会に出たが田舎がよくて丸亀に帰って来た。夫や親に頼れない環境で子育てをしてきたので、核家族で子育てするつらさもよくわかります。

川田:ファミリーサポートセンターは、第二のおばあちゃんやおじいちゃんを紹介しています。

三井:そんなふうに、困った時に頼れる人がいるのはありがたい。自分はコミュニケーションが苦手だったが、父親同士つながってみるとよかった。いろんな職場の人がいて様々な悩みも相談できる。



川田さん



岡田さん



三井さん

溝淵:相談できるのも生きる力ですね。笑顔が広がるまちにしたいです。

介護 住み慣れたところでいつまでも

川田:子どもが丸亀を出ていくかもしれないので老後のことが心配です。



津村さん

津村:すでに老後ですが、いきいきサロンの手伝いや、週1回独居の方に手作り弁当を配るボランティアをして地域のお年寄りと触れ合っている。自分は我が子が近くにいるので安心だが、独身の子どもたちの老後はどうなるのでしょうか。

岩田:レクリエーション活動を15年やっているが、最近は介護予防も兼ねてお年寄りと遊ぶ機会が増えた。独居の方が多いと感じる。

岡田:両親と同居しているし、親の面倒をみなければと思うが、地縁で他人が助け合って生きることも必要。

岩田:母が祖父母の介護をするのをみて育った。祖母が好きだった兄を見習って保育園のころから介護の手伝いをしていた。親の面倒をみるのは順番なのかなと思う。

岡本:他人も含めて人と人とのつながり、お互い様で助け合う気持ちが大事。介護をサポートする体制の整備・充実も必要です。

今できること

三井:子育て中でピンとこなかったけど、超高齢社会

日本女性会議in仙台

2012.10/26~27

男女共同参画審議会委員 真鍋志朗

仙台へ向かおうとしていた矢先、朝刊を開くと「男女平等 日本101位、主要国で最低評価」との記事! この男女格差報告で3位、男女平等先進国ノルウェーの、若手国会議員アネット・トレットバルグステューエンさんの記念講演は、貧しく、女性に非開放的だった国が、石油発掘で急転、裕福になっていく過程で、ブルトランド元首相(就任は1981年、初の女性首相)らとともに変革の担い手となり、ゆっくり・着実に、諸分野で多様性を認め合い、全ての性が平等に参画できる社会を創りあげたとの希望に満ちたメッセージ。「女性は石油よりも大切」の信念とそのエンパワメントには目を瞠る力強さがありました。



宮城県観光PRキャラクター むすび丸と

に向けて今できることを考えて丸亀を盛り上げたい。丸亀のよさを子どもに伝え、子どもが夢を描けるように。

岩田:老人がゆったり過ごせる場、高齢者と子育て親子の交流の場を作りたい。曾祖父が教えてくれた丸亀の豊かな自然を子どもたちに伝えていきたい。だんだん人間関係が希薄になっていると感じる。コミュニケーションは煩わしいこともあるとはいえ、生きていくうえでは大切だということを知ってほしい。



岩田さん

岡田:居住しているコミュニティは人口が減っているが、一緒に遊んで育ったつながりを大事にして、なんとか再生させたい。

津村:健康で、おひとりさまでも安心して老後が過ごせるように願う。婦人会が先細りにならないようにしたい。

川田:コミュニティに若い人も楽しく集えるような企画が必要だと思います。行政には、公共交通機関の整備をお願いしたい。

溝淵:いじめ・虐待・貧困など、悩みを抱え行き場を失っている子どもの居場所づくりも必要。働く場があり、安心して子育てできる丸亀でありたい。

岡本:防災なども女性が担う時代。今既に増えている高齢者一人暮らし世帯への対策、子どもが健やかに育っていく環境整備、若者が丸亀に帰ってくるまちづくり。一人一人を大切にみんなの社会をつくるためには、男女共同参画の視点が必要です。行政と協働して一緒に解決していきましょう。

東 日本大震災で亡くなられた方々への黙祷。悲痛な体験と日常を取り戻していく日々を綴った被災者の詩の朗読に続き、3.11を夫々の職場で体験した女性たちが、被災地で何をし、何を感じてきたか、彼女たちの視点で語り合うオープニングの構成は、大変衝撃的でした。多文化共生がテーマの分科会では、東北に暮らす外国人妻たちが、日本(村)社会に身を置き「いかなる困苦を乗り越えてきたのか、真の地域住民になるには何が必要だったか、本当の支援とは何か」を問いかけます。

被 災と復興、偏見と社会的承認などのテーマに触れ「様々な脆弱性を持つ者に対する差別を是正し適切にケアできる」社会を作るには、まず当事者意識を持つこと。そして専門性を深め、継続的な意識改革に努める。両性が共助し、力を結集して政治を動かす社会を変えていく。ここに男女共同参画の本来の意義があるとの思いを改めて強めました。